

◎幸せな贈り物

不安

そのはじまりとおわり

● **不安ですか？** 多くの人が占いをしに行きます。未来に対する不安のためではないでしょうか。特に、選挙があるころや入試を控えるころ、占い所は大変にぎわうのですが、そこには未来に対する人間の不安の心理が潜在しています。あるシャーマンは「ずっと他人の未来を占ってあげてきたが、いざ私が行く所と問われたら、それは見えない」と言いながら「人間の未来は本来、分からないものなのだ。私も私のこれからのことが分からないのに、だれがだれかの未来を教えてあげることができるだろう」と話しました。実際には、私ではどうしようもない過去と、未来に対する漠然とした思いが、今日を不安に生きる生活をあおりたてています。昔、長い歴史がある学校で、鐘を鳴らす鐘当番の人がいました。彼は鐘を鳴らしてノイローゼになりました。人々が彼を見て「このように大切な学校で重要な役割をしているのに、なぜそんなに幸せではないのですか」と尋ねたところ、その鐘を鳴らす人が話しました。「私はこれからこの鐘を三万六千回、鳴らさなければなりません。毎日この学校で十回ずつ鐘を鳴らします。一週間で七十回、1ヶ月ならば三百回、一年ならば三千六百回、私がこのことを終了まではこれから十年が残っています」ひとりが見ている、こういう忠告をしました。「兄弟よ！一日に十回ずつだけ鐘を鳴らして、一回に一度ずつだけ鐘を鳴らしたら良いでしょう」

ある人は、不安をもたらす心配を霧にたとえて言います。光化門一帯を30メートルにわたって濃く覆った霧は、実際には一杯の水が600億個の水滴に変わったことに過ぎないということです。心配は、はじめには一杯の水のようにたいしたことでもなく見えるかも知れないのですが、そのまま放置すれば、私たちの内面の世界をすっかり覆ってしまう霧に急変してしまうのです。そうすると、何も見えないようになります。それで自然に訪ねてくるのが不安です。本来、心配 worry という英語の単語は「メリムナオ merimnao」というギリシア語（動詞）に由来していますが、この単語は「分ける merizo」という単語と「心 hous」という単語の合成語です。したがって、心配とは「心に分ける」という意味だと言うことができます。アメリカのキリスト教出版協議会 ECPA から「ゴールデン メダル」を受賞したアメリカ最高の霊性作家で〈たいせつなきみ〉の著者であるマックス・ルケード Max Lucado は、彼の黙想集でこのように話しました。「心配の高い代価を知っていますか？よく聞いてみなさい。心配は心を二つに分ける…心配は今日のすることと明日の心配事でエネルギーを二つに分けてしまいます。心の半分は今日にあるのですが、残りの半分は明日にあるのです。その

結果は半分ぐらいたましいが抜けた人生です…心配は高価な習慣です。もちろん、効果だけあるならば値段を払っても良いでしょう。しかし、全く効果がありません。心配は使い道がないのです。心配は一日を明るくさせることも、問題を解決することも、病気をいやすこともできません」聖書は心配と思い煩いに縛られた生活に対してこのように戒めています。「だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」マタイの福音書 6:34

あなたは人生の不安が迫ってくる時、どのように勝ち進みますか。宗教改革者マルティン・ルター—Martin Luther が命に威嚇を感じていたとき、知人のフィリップ・メランクトン Philipp Melancton が彼に慰めの手紙を送りました。「どれくらい苦しいでしょうか。私があなたを手助けします」そのとき、マルティン・ルターが返信を送ったのですが、「私たちに問題がなかったことがあったのでしょうか。問題があるのが問題でなく、信仰がないのが問題でしょう」と話しました。

● 不安のはじまりと終わりはこのようです

人間はなぜ、根本的に不安で心配する人生を生きていくようになったのでしょうか。聖書には、すべてのものに創造原理があるとされています。魚は水の中に、木は根を地中に、鳥は空を飛び回りながら生きていくとき、幸せであるように創造されました。

そのように、本来の人間は、神様のかたちとして、神様と交わりながら幸せな人生を生きるように創造された霊的存在です。魚が水を離れて、木の根が地から抜かれる瞬間から、すべてのことが不幸の条件になりました。それと同じように、本来の人間が罪を犯して神様を離れて、まず最初に訪ねてきたのが「恐れと不安」でした。そして、根本的に私にだれなのか、だれとともにいるときに幸せになる存在なのかを忘れてしまうようになったのです。神様を離れた瞬間、すべての不幸が自分とは関係なく訪ねてくるようになったのです。神様を離れた以後、人間の運命は目に見えないサタンという霊的存在に

左右されるようになって、願ってもいないのに、のろいと苦しみの中に陥るようになりました。なにをしても、まことの平安、まことの満足は見つけることができず、むしろ麻薬と偶像崇拜と、そこに積み重なってくる肉的な病氣と繰り返す失敗、放蕩が呼び起こした家庭破壊と、隠している満たせないむなしさとうつ病、続いてくる理由も分からない苦しみによって自殺の誘惑に苦しめられるようになりました。結局、人間はこの世を離れる日、永遠な地獄と苦しみの中に陥るしかなく、自分が体験した苦しみは子孫に伝えられるしかなくなったと聖書は警告しています。

なぜ、あえてイエスを信じなければならないのでしょうか。人間自らはこの問題を解決できないからです。真実に一度答えてみてください。人間自身の努力で神様に会えるのでしょうか。私にある罪とのろいの問題、運命と運勢の問題を自分で解決できるのでしょうか。そして、これらすべての不幸の張本人であるサタン（悪魔）、悪霊の問題、そして、地獄の問題はどのように解決できるのでしょうか。ですから、私たちにはこの問題を解決するキリストが必要なのです。神様に会う道、罪とのろいと運命から解放される道、サタンの権威から解放される道を開いてくださいました。その道がまさにイエス・キリストであることを明らかにしているのが聖書です。イエス・キリストを信じる瞬間、人間は神様とともにいるまことの幸せの人生を生きていくようになります。再び問題の中にさまよう水準でなく、問題を征服して勝利する存在になるのです。水の上に浮かんでいる船は、風の方向で動くのではなく、帆の方向に動きます。私たちの人生に問題という風はずっと吹きます。しかし、問題は問題ではなく、人生の帆をどこに合わせるかがさらに重要です。あなたの霊的に見る目を、ただイエス・キリストに方向を合わせたら、いくら大きい問題と事件が押し寄せてきても、むしろ、神様の計画に、成長の土台になるでしょう。信仰の選択は瞬間ですが、その結果は、永遠な神様の約束であり、保証です。

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。(ペテロの手紙第一 5:7)

人生の 不可思議

・ 不可思議ということばは、人の考えでは推し量って推測することができないという意味で、人の力では達することができず、想像さえできない幽玄なことを言います。今日、古代の七不思議と呼ばれるのは B. C. 330 年頃アレクサンダー大王の東方遠征以後、ギリシャの旅行者に観光対象になった七つの建築物を示します。B. C. 2 世紀前半のビザンチンの数学者フィロン Philo が指定したことで①唯一残っている地球最大の石造建築物であるエジプト、ギザのピラミッド②B. C. 280～250 年頃ギリシャ、ファロス島にたてた 135m の世界最初の灯台であるファロス灯台③B. C. 282 年頃製作されたロードスの高さ 36m の太陽の神ヘリオスの巨像④B. C. 353 年アルテミシア女王がペルシャ帝国のある属州だったカリア国の王であって、死んだ夫のマウソロスを賛えるために作った建物であるハリカルナッソスのマウソロス霊廟⑤高さ 18m の柱 127 個を使って、長さ 120m、幅 60m のギリシャ時代に最も大きい神殿で、大理石で作った最初の神殿、エフェソスのアルテミス神殿⑥B. C. 435 年に古代の有名な彫刻家ペディアスにより製作された天空神ゼウスをかたどったオリンピアのゼウス像⑦ B. C. 500 年頃、新バビロニアのネブカドネザル 2 世が王妃アミティスのために建設したメソポタミアのバビロンの空中庭園です。ところで、こういう不思議な建築物は、人間の死に対する恐れを抜け出そうと考えるとところから始まったということが事実です。

・ 聖書は人間が解決できない 3 大不思議を語っています。地球上のどんな人間も避けられないサタン(悪魔)と悪霊の働き、罪とそれによる運命と運勢の問題、そして死後に行かなければならない地獄とさばきの問題。そして、このような人間の不思議に対する原因と答えを提示して、神様とともに本来の人間の幸せな人生を生きていくようにするのが聖書の目的です。それで人間の問題を解決して下さる「イエス・キリスト」を送って聖書の約束のとおり、十字架で死に、人間の罪とのろい、地獄の問題を終わらせて、3 日後に復活され、サタンの権威をうち破って人間にまことの解放と自由の道を開いてくださったとおっしゃいます。人間のために、すべての苦難を担われた後に、勝利者として復活するはずと言われました。それが神様という証拠です。救い主という証拠です。キリストという証拠です。その方が、今でも聖霊で信じる者とともにおられ、導き、働いておられます。そして、さばきの主として来られることを約束されました。イエス様が「あなたがたは恐れてはなりません。思い煩ってはなりません」と言われました。世の中がいくら変わっても、真理と神様のみことばは変わりません。それは、だれも神様を変えることはできないからです。それゆえ、神様は人間に信仰だけを要求されるのです。

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。
わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。
また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。
このことを信じますか。」
(ヨハネの福音書 11:25～26)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。
今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放して下さったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。
イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。
今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。
どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。
今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

救いも 選択しなければ なりませんか



イラスト_シン・ジョンウン

大学を選択して入学するまで、学生は多くの選択の過程を経て、卒業と就職のためには、さらに多くの選択を経るようになる。はじめて勉強ををはじめてから進路を決めるまで、どれ一つも粗雑にすることができなかつた重要な選択の過程だった。しかし、結局、最高の学問を成し遂げる大学にきてからは、より多くの選択をしなければならない岐路にあるが時には小さい選択でさまよう場合が多い。

ある有名大学の周辺の食堂に行ったことがあるのだが、メニューの中に特異なものがあつた。普通の味噌チゲ、キムチチゲ、純豆腐と白ご飯、ビビンパなど羅列されているメニューの真ん中に「なんでも白ご飯」があつたのだ。大学生が食事時間になれば一度にいっせいに集まってくるようになって、食堂は忙しくなるしかない。ところが、彼らが食堂にきてメニューを定めるのに時間が結構かかるのだ。個人の好みがある人もいるが、大概の場合は優柔不断で、正しい選択をできないので、いろいろな選択に時間がかかる。それで、時間節約も兼ねて、店の主人の長い間の経験から学生たちは、何でも食べるのが大勢なので、それをメニュー化させたアイデアメニューが「なんでも白ご飯」であるが、キムチチゲと似た価格の食べ物と味であつた。はじめには、学生がきて「なににしますか」と言えば「なんでもいいのだけど!」と彼らどうして話す。それでさらに尋ねないで、時間が忙しい食堂なので、アルバイト生が「なんでも白ご飯」をいつも整えて持ってくれば、たいがいは「私たちは頼んでいないのに」と言いながら難色を示す。そのときに「さっき、なんでもいいと言つたので、私たちの食堂の『なんでも白ご飯』を出しているのですが」と言いながら、メニューを見せれば、失笑しながら食べるしかはない。その次から食堂にきたら、いいかげんに話さずに正確なメニューを言うようになるが、その食堂のメインメニューが「なんでも白ご飯」なので、おいしくて、後にもまた、それを頼むようになるという主人の話だ

つた。

一食の食事のためのメニュー選択でも、私たちは考えるようになるのに、私たちの人生の永遠な救いのために正しい選択をすべきなのは当然のことだ。まずい食事はその時間が過ぎれば解決されるが、救いの選択は永遠がかかっていることなので、重さを感じなければならない。ところで、選択の結果は有益だが、選択の方法には損が従う。結婚するようになれば、ひとりの人が選択した一人の男性と一人の女性との自由な愛が許されるが、世の中の他のすべての男と女とは別れなければならないのと同じだ。しかし、その結婚の選択は地上最高の幸せを得るようにさせる。福音は、人間が地上で得ることができるすべてと地上では経験できないすべての価値を含んだ偉大な祝福だ。しかし、この福音は歴史の中で攻撃を受けたので、人たちは福音の価値よりは、福音の周辺に置かれたゴミによって福音の本質を知らずにいる。福音はイエスがキリストだ。人間は自分の経験を越えた選択をできないので、人間の経験の中にイエスが来られたが、それが人間イエスだ。地球を創造されたその方が地球の中に来られて、地球の限界を感じながら地球の中に住まわれた。したがって、人間の問題をご存知で、人間に必要な救いの要求にしたがって、その方はご自身のからだを喜んでささげて血を流して、キリストになられた。

この世には多くの宗教のメニューがある。なんでも白ご飯のように、宗教を選択するのは個人の自由だが、その結果は、個人が永遠に担わなければならない。しかし、福音の価値は私が選択するのではなく、選択された者だけが福音を選択できる絶対性を持つ。若干の非難があるが、自分が福音が良くて福音が選択をするとしたら、あなたは選択された最高の人なのだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ